

目 次

はしがき v

本書の活用の仕方 viii

第1章 英語学にはどんな分野があるのか 1

英語史 (English History) 1 / 形態論 (Morphology) 2 / 言語習得 (Language Acquisition) 3 / 統語論 (Syntax) 3 / 意味論 (Semantics) 4 / 音韻論 (Phonology) 5 / 語用論 (Pragmatics) 5 / 英語教育 (English Education) 6 / 心理言語学 (Psycholinguistics) 6 / 脳科学 (Brain Science) 7 / 社会言語学 (Sociolinguistics) 7 / 方言学 (Dialectology) 7 / 文献学 (Philology) 7

第2章 英語学の醍醐味と研究方法 8

- 2.1. 英語学の醍醐味とは 8
- 2.2. 英語学の研究方法とは 15

第3章 英語史 23

- 3.1. 英語はどこから来たのか 23
- 3.2. デーン人とノルマン人の攻撃 27

第4章 形態論 32

- 4.1. ゴジラはゴリラと鯨の混成語 32
- 4.2. ライスカレーとカレーライスの違い 36

4.3.	京都女子大学は京都・女子大学か京都女子・大学のどちら	40
4.4.	派生と屈折の違い	44
第5章	言語習得	48
5.1.	母語獲得における母語知識とは何か	48
5.2.	幼児の範疇理解と構造の関係	52
5.3.	人間の頭の中に普遍文法がある	55
5.4.	第二言語習得と動機づけ	60
5.5.	第二言語習得研究を活かした英語学習法について	63
第6章	統語論	69
6.1.	文の生成過程とは	69
6.2.	助動詞の構造	77
6.3.	助動詞縮約	82
6.4.	Wh 移動と痕跡	86
6.5.	代名詞解釈と言語直観	89
第7章	意味論	95
7.1.	「中身」と「入れ物」の文法	95
7.2.	「スル」と「ナル」の文法	99
7.3.	アスペクトと進行形	104
7.4.	時制と現在完了形と過去形の関係	108
7.5.	自動詞と他動詞の違いは何	112
7.6.	「押した」と「押し出した」の違いは何	116
第8章	音韻論	122
8.1.	シラブルとモーラ	122
8.2.	連濁の不思議	126

8.3.	オノマトペとサ変動詞「する」の関係	129
8.4.	語彙音韻論の問題	133
第9章	語用論	139
9.1.	英語では「とうとう試験に落ちた」と言えないのはなぜ	139
9.2.	「行き来する」が come and go となるのはなぜ	143
9.3.	情報のなわばり理論について	147
9.4.	発話行為	152
第10章	英語教育と英語学習	157
10.1.	英語教育に必要な構造の理解	157
10.2.	単文、重文、複文の理解	163
10.3.	中学校における be 動詞の教え方	170
10.4.	be 動詞理解のための主語 NP と助動詞における生成文法の 応用	175
第11章	形態論の応用と展開	179
11.1.	派生語形成の一般化	179
11.2.	語形成規則と名詞範疇条件・形容詞範疇条件の応用	187
11.3.	「～っぽさ」と X-ishness の関係	195
11.4.	「陰干しする」と「*布団干しする」の違い	198
あとがき		204
参考文献		206
索引		219